

# 常総学院同窓会会報

発行／常総学院高等学校同窓会 編集人／同窓会会報編集委員会 委員長／飯田晃久 印刷／(株)塚田印刷



## 同窓会会報発行にあたって



常総学院高等学校同窓会会長 飯田晃久

開校十八年目を迎え、常総学院は県内トップクラスの進学校に成長してまいりました。

いただきご協力をお願い出来れば有り難いと思っております。

平成八年には常総学院中等部が開校し、中高一貫教育もスタートし全国から注目されております。そんな母校の活躍や現況を、一万二千名を数える同窓会会員の皆様にお知らせしようということで今回、第一回同窓会会報を発行する運びとなりました。発行にあたり、まず昨年十二月より卒業生会員の住所録の確認を電話と郵便で、同時に行い、その後、会報の内容、原稿の依頼、印刷のレイアウトをして発行に漕ぎ着けることが出来ました。二年後には開校二十周年を迎える年となります。

早いもので第一回卒業生の私達も三三才となった今でも常総学院で過ごした三年間の高校時代を思い出すことが度々あります。入学当初はA棟、B棟のみの校舎で体育館、グランドは未完成で入学式はA棟1階のホールで行われました。生徒数は約三〇〇名と少なめでしたが、先生方や関係者の方々の気迫のようなものが、生徒一人一人に伝わって来るような、そんな楽しく充実した高校生活を送りました。卒業して一五年たった今でも常総学院の卒業生ということ誇りに思っております。

最後になりましたが今回会報を発行するにあたりご協力をいただいた先生方や関係者の方々に同窓会を代表して心より御礼申し上げます。

地域文化の発信基地として



学校法人常総学院  
理事長

櫻井 富夫

この度、同窓会会報が発行されますこと心からお慶び申し上げます。

常総学院卒業生の皆様におかれましては、各分野において、ご健勝にてご活躍のこととご推察申し上げます。

本校も創設十八年、地域の塩になれよ、また一隅を照らす人になれよと、情操教育を続け、一万二千人近い卒業生を各地、各界に排出することができました。まさに地域の縁の下の力持ちとして日々活躍されていることと推測しております。

常総学院は、自主 創造 誠実の旗を掲げ文武両道の分野において日本を代表する中高一貫の学院になることができました。

勉学の分野では、四年生大学の全員入学をめざし、その通りの成果を上げております、本年度は、国立大学入学数は県内において、土浦一高、水戸一高に次ぐ第三位

に位置づけることができました、現役合格率につきましては、国立

大学八十三パーセント、私立大学八十八パーセントと、高い確率で県内第一位を誇っております、合格数においても土浦一高を追い抜くことは秒読みに入ったと言っても過言ではありません、それも偏に卒業生の皆さんの弛まぬ努力と教職員の皆さんの熱情溢れる教育活動の成果であり心から感謝申し上げます。

また、常総学院の今後の権謀におきましては地域の学校教育のリーダーとして、また日本を代表する学校になることも去ることながら学校教育だけではなく、生涯教育、社会教育分野において卒業生を中心とした学院(キャンパス)と、社会の融合、即ち地域文化の発信基地としての私学としての役割を同窓会が負うものとして確信しております。

本学の発展は同窓会の発展に比例するものであり地域の常総学院のサポーターとして大いにプロパガンダをお願い申し上げます。皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

永続性のある同窓会を願って



常総学院高等学校  
校長

青山 和義

会員の皆様にはご健勝で、各分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。

本校は今年で創立十八年目、二年后には、記念すべき創立二十周年を迎えます。これまでの長年に亘る生徒、教職員、保護者一体になつての絶えまぬ努力と切磋琢磨によつて、年々発展してまいりました。

現在では、学習指導、部活動、生徒指導のすべての面で数多くの成果を残し、全国的に名を知られると共に、地域社会からも大きな評価が得られるようになりました。特にこの春には、国公立大学に一、二七名(内現役一〇六名)の合格者を出し、県内有数の進学校として注目されました。

さて、このような状況の中、このたび同窓会では、年に一回会報を発行し、具体的な活動を始めるのとこと、本校にとりまして誠に意義深く喜ばしいことであります。今の本校は、在校生、現職員そ

して施設設備のみで成り立っているものはありません。本校には先輩達から引き継がれた歴史と伝統そして校風など、また地域社会からの要請など目に見えない財産があります。従つて学校には、現状と知り得た卒業の動向などを卒業生の皆様にお知らせする義務があるように思います。

また、最近、教育上の問題として、学校の閉鎖性が指摘されています。この点について私立学校ではその傾向が強くなりますので、外部から客観的に見た本校の姿を、卒業生の皆様から良い点、悪い点、率直に建設的なご意見いただく場が求められるわけです。そのような意味で同窓会報の発行は時宜を得たように思います。

本校は創立二十年に満たない歴史の浅い学校です。歴史の古い、いわゆる伝統校では、同窓会報を発行しているところが多く見られますが、本校と同じような歴史をもつ学校では、ほとんど発行されていません。会報を発行できることは、本校に活力のある証拠です。会報の発行がこれから永遠に続くように、会員の皆様のご支援ご協力よろしくお願い致します。

### グローバルな青年の育成を



常総学院中学校  
校長

酒井 貫全

このたび、常総学院高等学校同窓会会報の発行、誠におめでとうございます。

昭和五十八年の開校以来、約一万二千名の卒業生が各界で活躍し、社会の発展のため、多大な貢献をしておりますことは、御同慶に堪えません。これも、常総学院で学び育った、高邁な英知が躍動している証であると存じます。

さて、この機に同窓会会員の皆さんに、中等部についてご紹介したいと思えます。平成八年四月、常総学院に中等部が誕生し、今年で五年目を迎えました。中高一貫教育を通して、建学の精神である知・徳・体を兼備した、二十一世紀のリーダーたるにふさわしい、グローバルな青年の育成を目標にしています。そのため、特に語学教育に力を入れ、本校独自のカリキュラムを作成し、個性と創造性を尊重した活気ある授業、多彩な学校行事を通して高い知性、豊かな

な人間性、たくましい気力と強い責任感をもった人間の育成に努力しております。また、外国人教師や海外中学校との交流を通して、国際性をも養成したいと考えております。生徒達には、常に高い志しをもつて、その実現に挑戦するように提唱しています。将来、日本のリーダーたるにふさわしい、高い知性と礼儀作法を身につけた品性のある常総学院生であるよう願っています。

お陰様で、これ等私共の教育方針に御父兄の御理解と御協力をいただき、着々と実績をあげているところでございます。どうぞ私共の意をお汲みとりくださいます。優秀な人材を中等部入学へとお薦めいただけたら幸甚でございます。今回の同窓会会報発行を契機に、先輩・後輩あるいは同級生等強い絆で結ばれてほしいと思えます。併せて、今後共母校の発展のために、御支援、御鞭撻の程を切にお願い申し上げます。



### 新時代の中枢を担え



常総学院 P.T.A.  
会長

岩淵 幸男

この度は、会報の発行に至り誠にありがとうございます。又、貴重な紙幅をさいて頂き、その厚い御配慮に心より感謝申し上げます。

さて、常総学院も昭和五十八年に誕生してから、間もなく創立二十周年の節目を迎えようとしています。創立よりの建学の精神「知育・徳育・体育の円満なる人物の育成」は、卒業生の各分野での活躍を様々な情報媒体を通して垣間見るに当り、その精神が着実に浸透していることは明白であります。

間もなく新しい世紀に入ろうとしています。二十世紀が人類にとって目眩く様な産業技術の発達を促した反面、大きな戦渦を何度も繰り返した負の側面を持つ世紀と促えることもできます。この様な時代から新しい世紀への転換期に当り、新時代の中枢を担い、方向を探って行くのはまさに本校で学んだ皆様の双肩にあると言っても過言ではありません。「新しい酒

は新しい革袋に入れよ」と申します。新しい時代を新しい学校で学んだ皆様が操舵する、そんな今後に期待して止みません。

学校教育の基本に、有為な人材の育成が挙げられます。具体的には、時代や地域社会或いは国際社会に要請される人間の育成にありますが、視座を変えれば、それは卒業生自身が、社会に対する意欲や方向性が確立されたことと同義であります。自己を見据え、その上で社会へ参画すること、それが有為の人材であり、時代や社会の要請に応える人間となる訳です。

時代のすう勢は予断を許しません。混沌とし遠望のきかない時代を迎えつつあります。そんな中に冒頭申し上げました建学の精神は、いわば地下水脈の如く皆様の中を流れております。常総学院で学んだ多くのものをどうか存分に發揮して、新しい世紀へ大きく飛翔して頂きたいと思えます。



### 国際社会の中でたくましく



常総学院後援会  
会長

飯田 林平

筑波の嶺の青雲を……、ではじまる常総学院高等学校校歌、この校歌とともに学業、諸活動に励まれ卒業された皆さんに、学校の近況等を知らせる第一回同窓会会報がこのたび発行されることになり、心より、お祝い申し上げます。また、たまたま後援会長の立場において、ここにお祝いを申し上げる機会を戴き光栄に存じております。

常総学院高等学校は昭和五十八年の開校以来建学の精神、教職員の創意による特色のある教育を推進し約一万二千名の卒業生を数えるにいたりまいした。平成八年には中学校も併設されて中高一貫教育がおこなわれるようになり、二十一世紀を担う生徒達を広い視野と郷土愛を持ち、日本人としての自覚と、国際社会の中でたくましく活動できる自主的精神に満ちた、心豊かな人材の育成のため真剣に取り組んでおり、学業、諸活動にと輝かしい成果を挙げてきており

ます。

また、中教審では、これからの教育のありかたについて審議がなされ、その中核をなすものは「ゆとり」の中で「生きる力」を育んでいこうということであり、心豊かで自ら学ぶ意欲と、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、個性を生かす教育の充実を求めている、これは常総学院高等学校の建学の精神、教育方針にまさに一致するものではないかとおもいます。

私も後援会は、これからも学校の教育方針を尊重し、よりよい学院づくりのため、教育環境の整備等、生徒達がなお一層学業、諸活動ができるよう学校とも協力しながら真剣に取り組んでいく所存です。

最後にこの同窓会の会報で、学院と卒業生とがより強い絆で結ばれますことを希望し、同窓会の発展と、皆様のますますのご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。



### プレハブの職員室



第一回卒業生  
(トランペット奏者)

神代 修

それは推薦入試の後、しばらくしてからのでした。

合格の内定を頂いていた私は一度学校の校舎を見ておこうと思いき、初めて工事中の常総学院を訪れました。

「入試受付」と張紙のあるプレハブのドアをあけ、学校を見学したいと申し出ました。

応対に出て下さった方とヘルメットをかぶり、まだ時計台と左側半分しか完成していない校舎を見学しました。

後日、その対応をして下さった方が当時教頭の前田先生だと分かり、驚きました。

当時の先生方には、新任の先生以外に他の公立校から移って来られた方も多く、新しい学校がスタートするにあたり、理想を高く掲げられた先生方の活気が校内に溢れていたのが印象的でした。

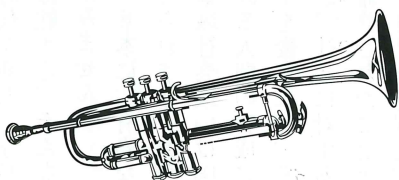
私は東京芸術大学への合格を目標にしましたが、そういう私

を先生方のみならず、櫻井理事長

(現在)から管理の宮本のおじさんまで応援して下さい、これ以上により環境はなかつたと思います。

さらに、新任でいらした本図先生の下、5人で吹奏楽部をつくり、それをたった3年で県内トップレベルにしていた事も大切な思い出です。

今や全国的に有名になり規模も大きくなった常総学院の原点があるのちっけなプレハブの建物もあり、そこから皆さんの努力をもって現在に至っている事を、是非ここに記しておきたいと思えます。



## 吹奏楽部

様々な分野での活躍を  
祈念して

吹奏楽部顧問 坂本秀樹

分厚い表紙を開けると、そこには懐かしい顔が並んでいます。誰もがみな笑顔で、何かを成し遂げた喜びを表しているようでもあります。頭の中には、あの頃の様々な思いが浮かんでいますが、不思議とまるで昨日のこのように感じられます。時間の流れは、こんなにも早いのに、思い出だけは永遠に私の側に寄り添ってくれているのかもしれない。

本校の吹奏楽部も開校と同時に発足し、今や全日本吹奏楽コンクールではお馴染みのメンバーにすぎませんでした。わずか十数年の間、こんなにも成長できたことは、やはり部員たちの一人一人が伝統を受け継ぎ、常に全力で努力した結果にほかなりません。その部員たちも、今はOB・OGとして多方面で活躍してくれていると思います。特に一期生の神代君は、N響をはじめとし、いろいろな日本を代表するオーケストラでトラン

ペット奏者として活躍してくれています。まさに常総学院高等学校吹奏楽部の生んだ素晴らしいOBの一人といえます。これからも更に活躍してくれることを期待しております。

このように多方面にわたって、本校の卒業生の活躍を耳にするたび、アルバムの中の顔とは全く違った大人の顔を想像いたします。なかには結婚され、家族を持つている方々も少なくはないと思いますが、時には常総学院で過ごした頃を思い起こしてみてください。あの頃若くて、とても素敵だった先生も、今ではパパになっていたりします。約一万二千人の卒業生が、この同窓会会報発行をきっかけに何らかの形で顔を合わせたり、クラス会などを催されるといいのですが、いずれにせよこれからも、常総学院の卒業生として誇りを持ち、様々な分野で活躍してくれることを祈念して、会報発行のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 写真部

開校当初の思い出と  
写真部

教諭 菅谷博之

早いもので、常総学院も開校一八年目を迎え、当時新卒でお世話になった私は、四〇代に入ろうとしています。返って見ると月日の流れの早さを感じると共に、一八年勤続できた事に感慨も沸いてきます。

開校当初の思い出と部活動について書いてほしいと言うことなので、改めて思い返してみますと、まず浮かんでくる事は、毎日放課後は、会議の連続、行事は全て全職員（全員で二〇名強）体制で取り組み、時には徹夜もあったことです。このような日々であっても、全職員と生徒が、いい学校にしよう、学校の基盤を築こうという意気込みから無我夢中で日々を過ごしており、私の二〇代は常総学院と共にあつという間に過ぎていった気がします。

また部活動については、当時生徒たちより自然発生的に生まれてきたものについて教員が検討し認

めてゆこうという流れがあり、それを受け、一期生の渡辺秀喜君より五〜六名の希望者がいるので写真部を作りたいという強い申し出がありました。私も部活動といっても、

ゼロからのスタートであり、何もないところへ集まってきた集団なので、十分に活動できるのかという思いはありました。しかし、渡辺君は、学校行事の記録撮影、夏休みの撮影合宿（軽井沢）といういろいろな企画を立案し、実行に移すことが出来ました。生徒たちも学校から認められた範囲での活動というところでいろいろと思うところがあったと思います。しかし、二年目、三年目と徐々に部員を増やし地味ではありましたが、着実に活動を展開してくれました。渡辺君以外も皆熱心に活動してくれましたが、特に初代部長ということで印象深く思い起こされます。

今でも時折連絡を受け、仕事に頑張っているとの事で安心しておりますが、開校以来写真部に籍を置き活動してくれた約三〇〇名の諸君にも一層の活躍を期待し、部活動の思い出とさせて頂きたいと思えます。

# 野球部

この度は、同窓会報の発行、誠におめでとうございます。また、同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より、野球部の活動にご理解をいただきと共に、ご支援、ご援助を賜りこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、本校も、来る平成十四年には、創立二十周年を迎えます。創立と共に創部されスタートしたわが野球部も今日では、十回の甲子園大会に出場し、春夏両大会を通じて準優勝が二回（昭和六十二年夏と平成六年の春）、ベスト4（平成五年）、ベスト8（平成十年）が一度づつという成果を残しております。全国的に見ても、強豪校と呼ばれるに相応しい野球部に成長することができたと自負しております。さらには、最近では、『出場するだけでなく、是非とも全国制覇を』という声も関係者から上がっております。

創部二十周年を控え、野球部がここまでの伝統と実績を残してこられたのは、これまで卒業されていった先輩方が一年一年、それぞれ



れの学年で、自分たちのやってきた野球部の集大成を積み重ね築き上げてきたものであります。とくに、創部当時、甲子園出場を目標として、施設、環境が十分整備されていなかった状態で、未だ見ぬ全国

大会という大きな敵をどの様に倒せばいいのか、どの様に戦えばいいのか皆目見当がつかず、自分たち自身に力を付けることに真摯な態度で臨んでいた先輩方、華やかな甲子園には力及ばず卒業していった先輩方の努力が次の学年で実を結んできたものであるに違いありません。

今後、わが野球部が悲願としている全国制覇を達成するために必要としているのは、当時の先輩方がどのような気持ちで、甲子園を考え、日々の努力、厳しい練習に耐えてきたのか、その当時の単純に強くなりたい、そのためならば、どんな苦

労でも耐え抜ける。というシンプルな欲、まさにこれではないかと考えています。

そういった意味でも、『OB会結成』、この目標を達成するべき時期になってきているのではないかと考えています。これまでの常総学院野球部の伝統に『OB会』という新たな伝統を加え、現役員が、その伝統の継承者である責任と、自覚に目覚めた時、常総学院野球部のさらなる飛躍が成し遂げられるのではないかと考えております。

最後に『野球部OB会』結成に関する野球部OB各位の今後の協力をお願いすると共に、同窓会会員の益々のご活躍をお祈りしながらペンを置きます。

## バレー部

男子バレーボール部は、学校の創立（昭和五十八年）と同時に創部し、今年で十八年目となりました。部員十人によって活動を始め、一年目はまだ体育館もなくホールやグラウンド、他施設の体育館を利用しての練習でした。

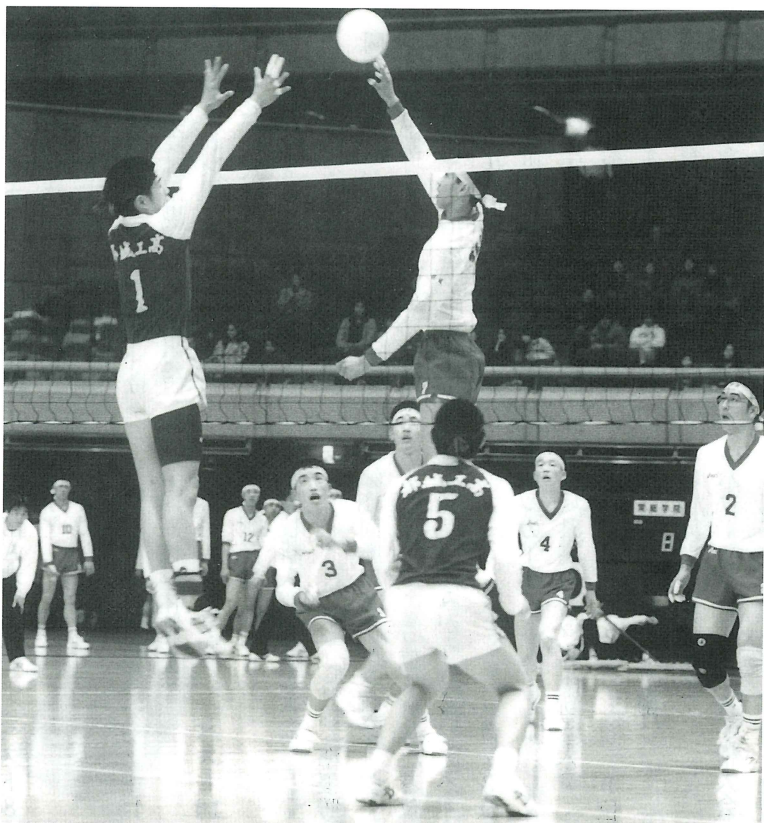
二年目になり待望の体育館が完

成し、部員数も増え、選手の意識も高まり毎日の練習が充実し、勝てるチームに一步一步、前進し始めました。そして、昭和六十一年



体（京都府）にも出場し、ベスト16という成績でした。着実に力をつけてきた我が部は、平成元年と平成五年に高校バレーのビック

創部四年目にし  
て県の競合チー  
ムを破り、関東  
大会初出場を果  
たしました。そ  
の翌年には県大  
会で初優勝し、  
みごと全国大会  
（兵庫県）に出  
場できました。  
その全国大会で  
は、県大会や関  
東大会とは違い、  
県代表としての  
プレッシャーか  
ら緊張している  
面も見られたが、  
予選リーグを突  
破し決勝トーナ  
メントに進み、  
初出場ながらベ  
スト16という  
輝かしい成績を  
おさめることが  
できました。ま  
た、その年の国



イベントである春の全国高校バレーボール大会に出場することができ、県代表として活躍しました。このように、短期間で実績をあげてきたので、県バレーボールチームの強豪校として認められるようになりました。

今後においても、常に全国大会出場をし、上位にくいこめるチームになるように選手と共に努力していきたいと思います。

今までの実績

- ・ 県優勝 14回
- ・ 関東大会 12回
- （平成十年関東大会、十回出場）
- ・ 全国大会 4回出場

# 平成12年度 部活動報告

## 運動部

### ●硬式野球部

春季関東地区高校野球大会 優勝  
茨城県大会 優勝  
全国高校野球選手権茨城県大会 準優勝

秋季関東地区高校野球大会 優勝

### ●柔道部(男子)

関東高校大会 団体 出場  
全国高校総体県大会 団体 5位  
個人81kg級 3位

### ●男子バレーボール部

春の高校バレー 全国大会県大会 3位  
関東高校大会県大会 3位  
2回戦 準優勝

全国高校総体県大会 準優勝

### ●ラグビー部

関東高校大会

Eブロック 優勝

### ●水泳部

国民体育大会県大会 優勝  
関東高校水泳競技大会 優勝

女子400m自由形 9位

女子200m個人メドレー 15位

男子400m個人メドレー 11位

男子200m背泳ぎ 16位

女子300m飛板飛込 11位

女子高飛込 8位

男子300m飛板飛込 2位

男子高飛込 1位

水球 5位

全国高校総体

女子200m・400m自由形

女子200m・400m個人メドレー

男子400mメドレーリレー

男子200m背泳ぎ

国民体育大会 出場

男子200m背泳ぎ

男子高飛込 14位

男子飛板飛込 3位

水球 11位

世界選手権大会 出場

### ●陸上部

男子高飛込 16位  
男子飛板飛込 21位

県総合体育大会

男子三段跳出場

### ●バドミントン部

関東大会県大会

男子団体 1位

女子団体 2位

関東大会

男子団体 5位

女子団体 9位

全国高校総体県大会

男子団体 1位

女子団体 2位

男子シングルス 1位

男子ダブルス 1位

女子シングルス 1位

女子ダブルス 1位

全国高校総体

男子団体 5位

男子シングルス 9位

男子ダブルス 5位

女子シングルス 9位

女子ダブルス 17位

### ●バスケットボール部

(男子)

関東大会県大会

ベスト8

全国高校総体県大会

県南A地区予選 ベスト8  
(女子)

関東大会県大会

ベスト16

県南A地区予選

ベスト16

### ●女子駅伝部

県高校新人駅伝競走大会

準優勝

第48回勝田マラソン大会

5位・8位・9位

第10回かすみがうらマラソン大会

2位・3位

### ●サッカー部

茨城県高校サッカー新人大会

9位

### ●パワーリフティング部

第17回関東高等学校

パワーリフティング選手権大会

男子56kg級 2位

男子60kg級 2位

男子67・5kg級 4位

男子75kg級 1位

男子82・5kg級 2位

団体 準優勝

第18回全日本高等学校

パワーリフティング選手権大会

男子52kg級 7位・10位

男子56kg級 1位

男子60kg級 4位



●弓道部  
 関東高校弓道県大会  
 男子個人  
 男子67・5 kg級 1位・3位  
 男子75 kg級 2位  
 男子82・5 kg級 2位

●硬式テニス部  
 全国高校総体県大会  
 男子個人 5位

●吹奏楽部  
 東関東吹奏楽コンクール  
 全日本吹奏楽コンクール 金賞  
 全日本高校・大学書道展 銀賞

# 文化部

●演劇部  
 県南A地区高校演劇祭 出場

●写真部  
 平成12年度茨城県高等学校  
 芸術祭 写真の部 入選7名

平成12年度関東地区高等学校  
 文化連盟写真部会合同写真展 入選

## 平成12年度 大学入試を振り返って

### 〔総括〕

今春においては、四年生大学・短期大学・準大学（文部省管轄外大学）併せて一六九七名の合格者を出すことができた。昨年より、実数にして一七〇名の増加である。国公立大学では、全国の状況を反映して厳しい受験をしいられたが、それでも昨年に続いて東京大学合格三名という快挙を成し遂げるこ

とができた。また、京都大学をはじめとした超難関大学でも合格者を出すなどよく健闘した。私立大学では、中堅層以上の大学の伸びが著しく、全国的な易化傾向から予想される合格者数の伸び以上に合格者実績を伸ばしており、進学校として順調に伸びてきた結果として評価されよう。

### 〔国公立大学の状況〕

国公立大学においては、現役・浪人合わせて昨年度の八二名を大きく上回る一二七名という結果を出すことができた。個別にみていく

と、まず東京大学に三名の合格者を出したことは、本校の進学校としての地位が確立してきたものと見てよいだろう。京都大学二名・東京工業大学一名・一橋大学一名・北海道大学七名・東北大学七名・筑波大学一六名といった難関大学への健闘も目立つ。また、茨城大

学にも三一名の合格者を出したように地元の国立大学への志望も増えている。生徒達の動向としては、合格者が全国各地にひろがっている。不況が続く中、国公立大学なら場所にはこだわらないという考えも定着しつつある。一方、本校は、都内の私立大学へも通学できるといふ地理的位置が大きく影響しているため、特に文系志願者の多くは、受験校を都内の私立大学だけに絞る傾向もみられる。しかし、三科目受験できる国公立大学も増えてきており、私大型の生徒で、国公立大学と私立大学を併願する生徒も増えてきている。

### 〔私立大学の状況〕

現役・浪人合わせて一四〇八名の合格者を出し、昨年より一二五名の増加である。これは、私立大学がやや易化したための増加もか考えられるが、今年度の三年生が健闘した結果と評価したい。今年度も昨年度に続いて、早稲田大学・慶応大学といった超難関校での合格者数を伸ばしていることが特徴である。合格者の多い大学に注目してみると、超難関校及び難関校では、早稲田大学の三九名・明治大学の六三名・東京理科大学の五七名・立教大学三三名・法政大学三三名などが挙げられる。また、中堅校では、日本大学の八六名・東洋大学の五五名・専修大学の四三名などが挙げられる。さらに流通経済大学五五名・中央学院大学三八名と地元の大学でも多くの合格者を出している。また、国公立大学と同様に私立大学でも合格者は全国に広がっており、同志社大学や立命館大学といった関西の難関校でも合格者を出している。



### 大学別合格者数推移(抜粋)

#### 国公立大学

卒業年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
大学名	卒業回	9期生	10期生	11期生	12期生	13期生	14期生	15期生
北海道			1		2			7
東北	8	5	1	3	4	4	7	
茨城	9	11	22	19	15	15	31	
筑波	11	12	16	12	7	8	16	
埼玉	1	3	2	5	5	10	7	
千葉	2	5	12	8	6	1	8	
東京	2		1	2	1	3	3	
東京工業	1	1		1		2	2	
一橋	1	1		1			1	
横浜国立	1	1	5	3	1	4	6	
京都		1	2	1	1		2	
茨城県立医療		2	4	3	3	3	7	
その他国公立大	21	30	41	55	24	42	37	

#### 私立大学

卒業年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
大学名	卒業回	9期生	10期生	11期生	12期生	13期生	14期生	15期生
青山学院	9	21	28	18	11	14	23	
学習院	2	3	7	11	11	13	18	
慶応義塾	4	2	11	10	11	10	16	
専修	12	21	36	37	36	27	43	
中央	11	17	20	17	14	9	26	
東京女子	5	3	7	9	4	7	13	
東京理科	17	32	54	41	26	25	57	
東洋	30	30	46	47	28	50	55	
日本	32	61	77	88	70	93	86	
日本女子	8	5	7	15	5	5	12	
法政	25	30	35	35	23	17	33	
明治	30	48	34	40	22	27	63	
立教	13	19	16	13	22	14	33	
早稲田	13	19	28	32	35	38	39	

### 常総学院高等学校 同窓会本部役員

会長	飯田 晃久
副会長	伊藤 哲也
	泉 琢磨
	長崎 清美
	田中 光恵
幹事	関口 義久
	仲野谷 宗治
	前川 信史
監事	飯塚 康弘
	磯部 和弘
事務局	小松崎 栄治

編

集

後

記

本校の創立二〇周年が二年後に迫り同窓会の活動を活性化させようと、会長を中心に盛り上がりを見せ、昨年の四月に第一回の役員会を開いて以来、何度かの役員会を開き、その活動の一つに会報を発行し会の大きな柱にしようということが話し合われました。

幸いにも現在では本校職員のかに卒業生が在職し、会報発行の有力な担い手となり、今後の会報の紙面をより一層楽しくさせてくれるものと期待しております。

ここにいたるまでには、会長をはじめとして多くの方々のご協力がありました。改めて御礼を述べ

#### 同窓会事務局より

今回の会報発行にあたり、住所確認等のため電話及び、往復葉書による問い合わせを実施いたしました。その際大変ご迷惑をかけた事等、おわび申し上げます。

尚、往復葉書の返信カードがお手元にありますら、至急御返送をお願い致します。

るとともに、同窓会活動の充実のためには、会員の皆様の御支援・御協力がどうしても必要です。同窓会発展のため、よろしくお願ひ申し上げます。

編集委員一同